三角関数と虚数、そしてオイラー方程式、電弱相互理論と電強相互理論から重力と反重力により、派生する時間のルーツ

Masaaki Yamaguchi

次元の対称性による回転は異次元の系列による要素に変化して、この真空エネルギーはヒッグス場を形成している素粒子から生成されていて、その上に零次元からのエネルギーがこの場から生成されることから宇宙と異次元がダークマターから表現論によりビッグバンとして始まっている。それ故に、この要素による物質場は原子の貯蔵庫が素粒子１２種類に属している。

$$(dx, \partial x) \cdot (\epsilon x, \delta x) = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}^{\frac{1}{2}}$$

$$\frac{d}{df} F = m(x)$$

それ故に、この素粒子は超対称性理論により派生して、物理作用が化学変化を統合してもいる。これらの作用素は幾何学変化から空間により生物と宇宙を形つくるネットワークをも生み出しいている。この対称性による次元の輸送による転位は虚軸と実軸による回転をも空間のニュートンリングとして派生してもいる。そして、この対称性による転位からの次元による回転は時間の一方向性にも属している。量子力学は時間の別側面による虚数による系列をも有している。この両側面による時間の流れは時間自体が止まり、重力と反重力へと変化してもいる。時間は虚時間をも有している。電弱相互理論は時間の一方向性でもあり、このトポロジーは時間の流れの結果からの鎖体でもある。

$$\Box(\frac{\sigma_1 + \sigma_2}{2}) = [3\pi(\chi, x) \circ f(x), \sigma(x)]$$

$$\Box\psi = 8\pi G T^{\mu\nu}$$

$$\frac{d}{dt} g_{ij}(t) = -2R_{ij}$$

$$\nabla\psi^2 = 4\pi G\rho$$

$$\Box(\sigma_1 + \sigma_2) = [6\pi(\chi, x) \circ f(x), \sigma(x)]$$

$$= [i\pi(\chi, x), f(x)]$$

$$\Box\psi = [12\pi(\chi, x) \circ f(x), \sigma(x)]$$

$$\frac{d}{df} F = \int e^{-f}[-\Delta v + R_{ij}v_{ij} + \nabla_i\nabla_j f + v\nabla_i\nabla_j + 2 < f, h > +(R + \nabla f)(\frac{v}{2} - h)]$$

$$= [i\pi(\chi, x), f(x)]$$

これらの方程式は時間の流れから一方向性をも感じて、未来と過去へと流れる時間の機構へと行き着く。それ故に、この時間のシステムの結果電弱相互理論は時間の流れにもなっている。そして、虚時間による反重力が時間の別側面にもなっている。ここでも注目すべきは、電磁気力が２方向の重力と弱い力が一方で、もう一方が反重力と強い力として結合されている故に、電弱相互理論と電強相互理論として分かれている力が統一場理論として量子力学として時間が止まっている仕組みをつくっている。

$$f^{-1}(x)xf(x)=1, H_m=E_m\times K_m$$

この非可換代数方程式はローレンツアトラクターとして複素多様体になり、世界面を形成していて、この弦理論は宇宙を構成している６種類の素粒子と異次元を形成している６種類の素粒子をも示してもいる。これらの素粒子は超対称性理論をも示してもいる。

$$i=(1,0)\cdot(1,0), e^{i\theta}=\cos\theta+i\sin\theta$$

$$e^{-i\theta}=\cos\theta-i\sin\theta$$

$$\sin\theta=\frac{e^{i\theta}-e^{-i\theta}}{2i}$$

$$\sin i\theta=\frac{e^{-\theta}-e^{\theta}}{2}$$

$$\pi(\chi,x)=\cos\theta+i\sin\theta$$

この方程式から２次元が３次元へと逆方向へと分解して、この崩壊から５次元が統合されている。この分解による逆方向へと統合される３次元多様体が同型としての５次元多様体を二重被覆として準同型写像となり、３次元多様体をも包み込む結果を生む機構にもなっている。３次元多様体と２次元射影空間がミンコフスキー空間として、２重被覆となり、アーベル多様体と同型と求まり、リッチ・フロー方程式となる。

$$R(-\alpha)=\begin{pmatrix}\cos\alpha & \sin\alpha\\ -\sin\alpha & \cos\alpha\end{pmatrix}$$

$$R(\alpha)=\begin{pmatrix}\cos\alpha & -\sin\alpha\\ \sin\alpha & \cos\alpha\end{pmatrix}$$

$$R(\alpha)MR(-\alpha)=\begin{pmatrix}\cos\alpha & -\sin\alpha\\ \sin\alpha & \cos\alpha\end{pmatrix}\begin{pmatrix}1 & 0\\ 0 & -1\end{pmatrix}\begin{pmatrix}\cos\alpha & \sin\alpha\\ -\sin\alpha & \cos\alpha\end{pmatrix}$$

$$=\begin{pmatrix}\cos^2\alpha-\sin^2\alpha & 2\sin\alpha\cos\alpha\\ 2\sin\alpha\cos\alpha & -\cos^2\alpha+\sin^2\alpha\end{pmatrix}$$

$$=\begin{pmatrix}\cos 2\alpha & \sin 2\alpha\\ \sin 2\alpha & -\cos 2\alpha\end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix}\cos\alpha & -1\\ 1 & -\sin\alpha\end{pmatrix}\begin{pmatrix}\cos\alpha\\ \sin\alpha\end{pmatrix}=\begin{pmatrix}1 & 0\\ 0 & -1\end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix}\cos\alpha & \sin\alpha\\ \sin\alpha & -\cos\alpha\end{pmatrix}\begin{pmatrix}x\\ y\end{pmatrix}=\begin{pmatrix}1 & 0\\ 0 & -1\end{pmatrix}$$

$$\lim_{\theta\to 0}\begin{pmatrix}\sin\theta\\ \cos\theta\end{pmatrix}\begin{pmatrix}\theta & 1\\ 1 & \theta\end{pmatrix}\begin{pmatrix}\cos\theta\\ \sin\theta\end{pmatrix}=\begin{pmatrix}1 & 0\\ 0 & -1\end{pmatrix}$$

$$f^{-1}xf(x) = 1$$

$$(\log x)^{'} = \frac{1}{x}, x^n + y^n = z^n$$

$$x^n = -y^n + c, nx^{n-1} = -ny^{n-1}y^{'}$$

$$y^{'} = \frac{nx^{n-1}}{ny^{n-1}}$$

$$= \frac{x^{n-1}}{y^{n-1}} = -\frac{y}{x} \cdot (\frac{x}{y})^n$$

$$-\frac{\cos x}{(\cos x)^{'}}(\sin x)^{'} = z_n$$

$$z^n = -2e^{x \log x}$$

$$\lim_{x \to \infty} f(x) = a, \lim_{y \to \infty} f(y) = b, \lim_{x,y \to \infty} \{f(x) + f(y)\} = a + b$$

$$\lim_{z \to 0} f(z) = c, \delta \int z^n = \frac{d}{dV} x^3$$

$$\lim_{x \to \infty} = c - \lim_{y \to \infty} f(y) \lim_{x \to \infty} f(x) + \lim_{y \to \infty} f(y) = \lim_{z \to \infty} f(z)$$

$$z^n = \cos n\theta + i \sin n\theta$$

$$= -2e^{x \log x}$$

これらの方程式は重力と反重力方程式でもある。

$$\frac{d}{d\sigma}\left[\frac{(\sigma_1+\sigma_2)}{2}\right]$$

$$= \sigma(\upharpoonleft\downharpoonright) + \sigma(\upuparrows) + \sigma(\downdownarrows) + \sigma(\leftleftarrows) + \sigma(\rightrightarrows)$$

$$\frac{d}{df}\int\int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m = \sigma(\upharpoonright)$$

$$\frac{d}{df}\int\int \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m = \sigma(\downharpoonleft)$$

$$\sigma(\leftarrowtail) + \sigma(\rightarrowtail) = \int e^{-f}[-\Delta v + R_{ij}v_{ij} + \nabla_i \nabla_j v + v \nabla_i \nabla_j + 2 < f, h > +(R + \nabla f)(v - \frac{h}{2})]$$

$$\sigma(\downharpoonright) = \sigma(\upharpoonright\downharpoonleft + \upuparrows + \rightrightarrows)$$

$$\sigma(\upharpoonleft) = \sigma(\upharpoonright\downharpoonleft + \downdownarrows + \leftleftarrows)$$

$$\text{weak electric theorem} = \sigma(\upharpoonleft)$$

$$\text{strong electric theorem} = \sigma(\downharpoonright)$$

これらの方程式は、トポロジーとしての弦理論のモデルでもあり、電弱相互理論を構成しているマクスウェル方程式と弱い力と重力として、カルーツァ・クライン理論が部分群として強い力を反重力に分配して、この力もマクスウェル理論に結合して、３種類ずつの力へと統合されている。この２種類の結合力が重力と反重力へと結びつけられて、ゼータ関数となっている。